

技術ノート KGTN 2010122101

現象

[GGW3.2.1] 技術ノート KGTN#2010042701 に従ってチェックしたが、同一のコンピュータ名を持つクライアントは存在しなかった。しかし、クライアントプリンタが 16 進表記で生成される。

説明

このようなケースでは、そのクライアント（コンピュータ）自体が重複して認識されています。クライアントプリンタの情報（クライアント側）**print.ini** には、クライアントの ID を保持しており、この情報を元にサーバ側でオートクリエイトプリンタが生成されます。この時、クライアントプリンタの情報（サーバ側）**ClientIdentifiers.ini** にもその情報が記録され、重複が無い場合は通常のプリンタ名となります。この **ClientIdentifiers.ini** 中の情報はログオフと共に削除されますが、接続障害等の異常が発生した場合は削除されずに残ります。

この状況でクライアント側の **print.ini** が削除された場合、次回ログオン時に新たなクライアント ID が生成されます。しかし、サーバ側の **ClientIdentifiers.ini** に前のクライアント ID（MAC アドレスが同一）が存在していますので、GG サーバはこれをクライアント ID の重複と認識して、16 進表記のオートクリエイトプリンタを生成します。

対応は、サーバ側の **ClientIdentifiers.ini** を消すか、または（その中の）同一の MAC アドレスを持つ行を全て削除して下さい。

参考1

実験等で 16 進表記のオートクリエイトプリンタを生成する手順は以下の通りです。

- 1) クライアント側の **print.ini** とサーバ側の **ClientIdentifiers.ini** にを消す。
- 2) クライアントからサーバへ接続する。
- 3) 正しいオートクリエイトプリンタが作成されたことを確認する。
- 4) 「セッションを切断せずに」クライアント側の **print.ini** を削除する。
- 5) クライアントからサーバへ接続する（新たなセッション）。
- 6) 16 進表記のオートクリエイトプリンタが作成される。

print.ini が削除されると、（その後の接続で）新たなクライアント ID が作成されるため、同じクライアントで異なるクライアント ID が存在することになり、その結果 2 つ目のセッションのオートクリエイトプリンタが 16 進表記になります。

参考 2

GGH4.0 (Ver4.0) では、クライアント印刷機能のアーキテクチャが変更されたため、**print.ini** および **ClientIdentifiers.ini** が存在しません。従って、本件の現象は本質的に発生しません。